

水田農業低コスト・高付加価値化基盤整備事業の取組事例 (大塚西部1期地区)

1 地区の概要

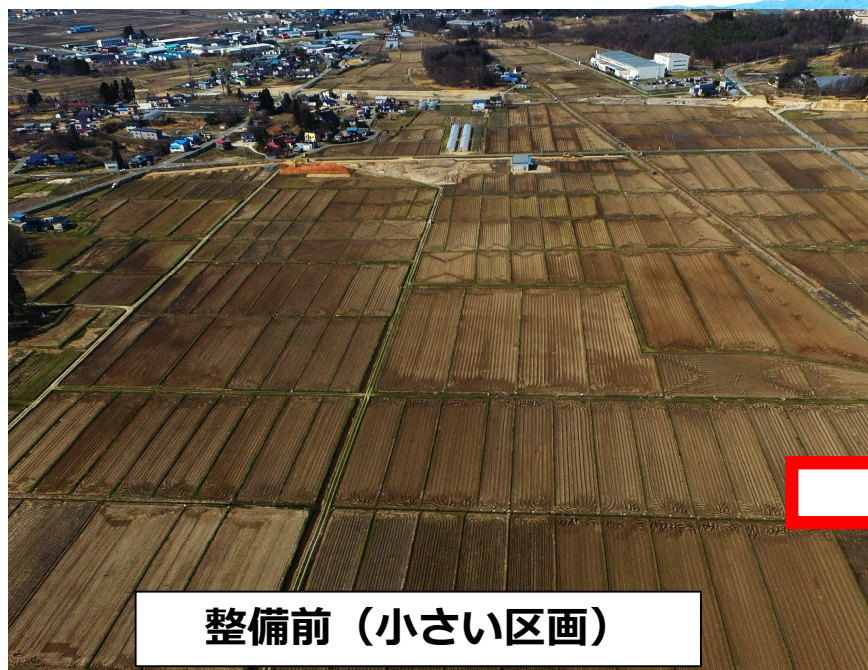
- 山形県川西町の北部に位置し、一級河川元宿川の左岸に展開する水田地帯。昭和30年代に整備されたが、ほ場の区画が小さく(10a程度)、農道が狭小であるため農業機械の大型化への対応が遅れている。
- 用排水路も土水路のため維持管理に多大な労力を費やしており、担い手への農地集積を図るうえで阻害要因となっている。
- このため、大区画化を中心とした基盤整備を実施して、近代的な大型農業機械の利用を促進するとともに担い手への農地集積を図り、安定的な農業経営に資するもの。

事業工期	平成28年度～令和7年度
受益面積	166.4ha
負担割合	国55%、県27.5%、川西町10%、地元7.5%
担い手集積計画	79.9%(23名の担い手農家に166.4haのうち133.0haを集積)

2 主な整備内容

区画整理工

- 整備前の農地は水田1枚の広さが約10a(1,000m²)と狭く、営農が非効率。約1haの大きさに区画を拡大して効率的な稲作を目指す。



整備前（小さい区画）



整備後（大区画）

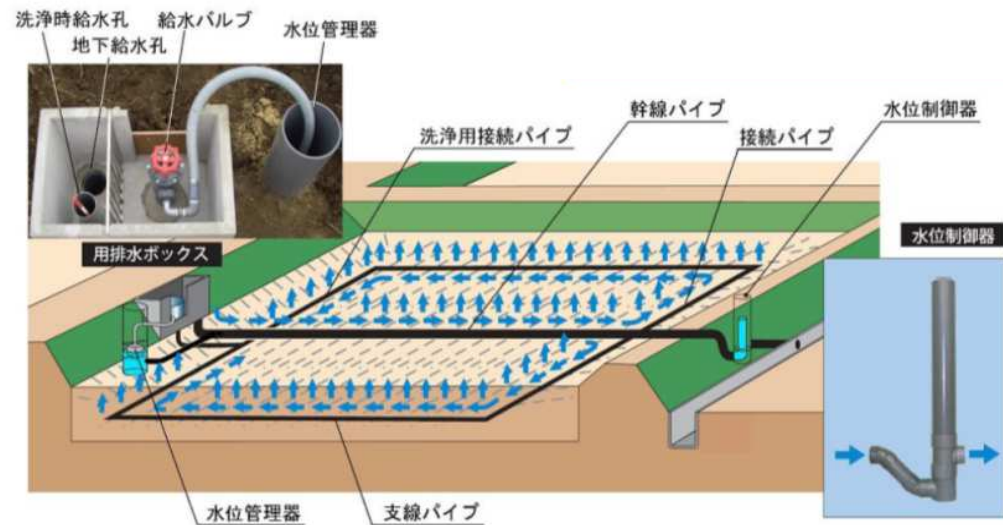
調整水槽工

- 調整水槽を新たに設置し、ここから農地にパイプラインを通して農業用水を供給している。



地下かんがい工

- 次の目的で農地の地下に有孔管を配置する。園芸作物の高品質化や、乾田化に効果がある。
 - 用水が必要な時は、地下パイプに給水し、地下水位を上昇させて、作物の根の領域に水を補給する。
 - 地下水位を下げたい時は地下パイプから排水する。



3 事業の主な成果

① 効率的な稲作農業の展開

大区画に整理された水田では、効率的な稲作農業が展開されている。



② 高収益作物の栽培拡大(えだまめ、キュウリ等)

地区内では、えだまめやキュウリなどの高収益作物の栽培が行われている。



えだまめ



キュウリ



えだまめ収穫作業



キュウリ団地の営農指導

③ 整備したほ場で作物の栽培実証を実施

更なる園芸作物の振興を図るため、JAや町、土地改良区などと連携して、営農技術指導や普及啓発活動を進めている。



えだまめ収穫実演会



えだまめなどの園芸作物は、JA全農山形の集出荷施設「成る」などを活用して全国の市場に出荷されている。